

## 維持期脳血管疾患患者の自主訓練頻度と患者状態との関連について

医療法人凌雲会 稲次整形外科病院

高岡光弘 三木幸一 土井大介 稲次正敬 湊省 稲次圭 稲次美樹子

独立行政法人 国立病院機構 徳島病院 高田信二郎

### はじめに

当院は、30床の回復期リハビリ病棟を有しており、当院退院後に在宅で生活されている方を中心に、外来にて疾患別リハビリテーション（以下外来リハ）を提供している。通院される方が現状の改善に力を注ぐ中、入院時集中的にリハビリテーションを提供していた事で、外来リハで行える提供時間・頻度の減少について不安視している声も多く聞かれる。その不安を取り除くため、自主訓練を積極的に推奨する事により、スタッフが関わっていない時間も含めた日常生活がリハとなるように取り組んでいる。結果、退院時能力と比べ、機能的な向上が見られる患者も多く、自主訓練の効果を感じる部分もある。

そこで今回、自主訓練頻度と内容を調査し、現状能力と退院時能力を比較検討する事で、自主訓練が患者の身体面・生活面等に関与したかどうか検証した。

### 対象・方法

平成25年4月以降、当院回復期リハビリ病棟を退院し、定期的に外来リハ通院されている脳血管疾患患者16名を対象に、アンケート調査を実施。アンケート項目は、①自主訓練頻度（時間）、②自主訓練内容とした。また、現状能力については、当院定期評価項目（FIM、TUG等）とした。退院時評価と現状能力を比較、各項目間について統計学的処理を行った。

### 結果

退院時と現状能力の比較について、両者間において有意差を認めた。自主訓練頻度・時間の多い方については定期評価項目において、各評価項目で向上が見られた方が多く、内容については、指導した自主訓練プログラムだけでなく、散歩・歩行の頻度が高い結果であった。

### 考察

上限日数の制約の中、外来リハのみで機能維持・改善を図ることは難しい場合もある。今回の結果より、個々の状態を定期的に把握し、個別性を重視した自主訓練プログラムを提供する事で、機能的維持やそれ以上の効果が得られる可能性が示唆された。今後の課題として、自主訓練時間の延長・内容の充実が挙げられる。